

The 9th IAGG Master Class on Ageing in Asia 体験記

小宮 仁

(日老医誌 2019 ; 56 : 86)

The 9th IAGG Master Class on Ageing in Asia が、平成 30 年 5 月 27 日から 29 日にかけて、タイの首都バンコクにあるマヒドン大学シリラート病院で開催されました。

私は、日本から参加させていただきましたのでご報告いたします。

The 9th IAGG Master Class on Ageing in Asia は、その表題のとおり平成 30 年で 9 回目となります。日本からは、講師として東京大学の秋下先生が、チューターとして東京大学の小島先生が出席されていました。他に参加者として、私以外に、東北大学、東京大学、大阪大学から大学院生の先生方がそれぞれ 1 名ずつ出席されました。

海外からは、韓国、中国、台湾、フィリピン、ベトナム、タイなどアジアの国から、若手の医師が参加していました。

今回のテーマは認知症ケアでした。認知症ケアに沿った講義、講義についての熱心な討論、各参加者のプレゼンテーション、夕食会など中身の詰まったプログラムから構成され、あっという間の 3 日間でした。

出席者の皆様は英語が堪能で、私は非常に大変でしたが、貴重な経験となりました。また、久しぶり (10 年以上) の海外で、現地で非常に不安でしたが、秋下先生、小島先生をはじめ、日本人の先生方にいろいろ助けてい



写真 1

ただきました。ありがとうございました。さらに、貴重な経験の機会を与えてくださった諸先生方に感謝しております。

日本に戻ってから気づいたことがあります。以前「バンコクナイト」という映画を鑑賞して、その舞台となっていたバンコクのタニヤ通りに一度は行ってみたいと思っていたのですが、そこに行くことすら思いつかなかったくらい充実し過ぎて精神的に余裕のない体験でした。